

05 研究・調査事業

◆食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の課題（2025年度分）

食品安全委員会は、リスク評価の実施又は評価方法の指針等の策定に必要なデータ及び知見等を得ることを目的として、研究・調査事業を行っています。2025年度に新たに実施する研究・調査課題については、研究・調査企画会議事前・中間評価部会での審議を経て、食品安全委員会において決定しました。

研究課題

- 親化合物の毒性試験情報を活用した農薬代謝物のインシリコ毒性予測に関する研究
- ベイズ論的アプローチを用いたベンチマークドーズ法の適用に関する研究
- 魚類を用いたPFASの発生発達毒性評価法の確立と機序の解析
- 残留農薬の遺伝毒性試験結果の解釈および評価方法の構築に関する研究
- 有機フッ素化合物の生体内動態を加味したヒトへの毒性評価法の開発
- カンピロバクターに関する定量的データに基づくフードチェーンを通じたリスク評価
- 病原微生物のばく露評価に資する日本国内データベースの構築〔若手枠〕
- ミクログリアに着目した食品の次世代神経毒性評価システムの開発研究〔若手枠〕

2024年から食品健康影響評価を担う若手専門家の育成枠を開始しました！

調査課題

- アレルゲンを含む食品のファクトシート（くるみ）等の作成に向けた科学的知見の調査
- 農薬リスク評価に関する海外状況調査（令和7年度）
- 食品添加物のリスク評価に係る諸外国の状況調査
- リスク評価における新しい評価手法の現状と必要性に関するヒアリング等の調査
- ビスフェノールAに係る国際機関等の評価及び科学的知見の情報収集並びに整理



◆食品健康影響評価技術研究成果発表会（2023年度終了分）

2023年度に終了した研究課題について、その研究の成果の普及及び活用を促進することを目的として2025年2月26日に、成果発表会をオンラインで開催しました。

- 国内の鉛ばく露の実態と小児の神経発達への影響に関する研究（国立環境研究所 環境リスク・健康領域 主任研究員 岩井 美幸）
- アニサキス食中毒のリスク評価に関する調査研究（国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部 部長 大西 貴弘）
- 化学物質による非遺伝毒性発がんの新規リスク予測・評価手法の開発（静岡県立大学 薬学部 教授 吉成 浩一）

06 国際協調

◆委員、専門委員又は事務局職員が、以下の国際会議等に参加し、各国の専門家・関係機関との意見・情報交換等を行いました。（2024年度）

- | | |
|-----|---|
| 4月 | 第5回国際食品機関長フォーラム (IHFAF) (シンガポール) |
| 5月 | 米国内分泌学会(ENDO)2024(米国) |
| 7月 | 国際食品保全学会年次学会 (IAFP) 2024 (米国) |
| 9月 | EUROTOX2024 (デンマーク)、
FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議 (JMPR) (イタリア)、
レギュラトリーサイエンスに関する国際会議 (GSRs) 2024 (米国) |
| 11月 | 国際がん登録協議会年次学術集会 (IACR) 2024 (中国) |
| 3月 | 第64回米国毒性学会 (SOT) (米国) |
| その他 | 第17回コーデックス食品汚染物質部会CCCCF(4月)、第54回コーデックス食品添加物部会CCFA(4月)、
第39回OECD農薬作業部会(2月) |

